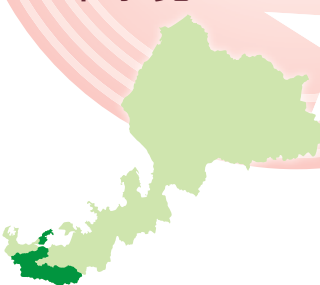


わがまち自慢

町長室から



福井県おおい町 中塚 寛 町長



観客にお越しいただきました。

この『スーパー大火勢』ですが、町内の若者たちが中心となって取り組んでいます。本番の8月まで、1月当初から実行委員会を重ねて、萱の刈取りから、松明の作製などの準備を行っています。火の粉を浴びながら大火勢の本体を回す「若衆」には、町内はもとより、遠方は名古屋からも参加していただいております。

また、名田庄地区でも「星のフイエスタ」という今年で25回目となったイベントを開催しています。

室町時代末期から伝わる伝統行事をモチーフにしており、陰陽師の安倍晴明の子孫が応仁の乱から逃れて、3代にわたって名田庄地区に移り住み、天体観測で暦を作ったことが由来です。以前は、京都の大文字焼きのように山で「星文字焼き」を行っていました。不幸にも火災が発生したり、また、

このイベントは、町内の佐分利地区などに300年ほど前から伝わる火災鎮護、五穀豊穰などの、愛宕信仰である神事『大火勢』をモチーフとして、平成6年に、町の若い人たちと地区住民、行政が一体となって実行委員会を立ち上げたことが始まりで、手作りのイベントになっています。

燃え上がる高さ20メートル、幅8メートル、重さ1トンの木の葉型の巨大松明を、「若衆」たちが勇ましい掛け声に合わせて回転させるという勇壮なもので、今年も天候にも恵まれ、7万5千人もの

〔左〕町民が一体となって開催するイベント『スーパー大火勢』
〔右〕巨大な松明を回転させる『スーパー大火勢』のクライマックス

このように、おおい

町では若者世代が故郷のために、役割と責任を認識して、地域のために力を尽くそう、良

くしてこういう意識が残っています。町が一体となって、地域への貢献という「パトロン」を、壮年・老年世代から次世代へと繋

古くから京都の食文化を支えてきた豊かな恵み

若狭地方は古くから、「御食国」と呼ばれ、京都の食文化を支えてきました。小浜を起点として京都に向かう『鯖街道』が「日本遺産」となりました。

それを支えてきたものに、町内の大島地区のみなさんが小浜に船で運んだ魚があったと思っす。この小浜へ向かう船の道は、『海の街道』とも言えるものです。

大島地区で獲れた「若狭ぐじ」や鯖などの豊富な魚介類はこの道を通って運ばれていま

いでおり、そうした力こそ、わが町が本当に誇れるところだと思っています。その力が町をますます元気にしてくれています。

た。その意味では、この『海の街道』から『鯖街道』へと続く出発点が、ここ、おおい町でもあることを全国の皆さんに、ぜひ知っていただきたいと思っています。

鯖は「へしこ」などの加工品として若狭地方の特産品になっていますが、おおい町では、なんと



『鯖街道』へ続く『海の街道』の出発点のまち



若狭ぐじ



梅の加工品



自然薯



名田庄漬



名田庄地区の地域住民による手作りイベント『星のフイエスタ』



『道の駅うみんびあ大飯』



『みどりの広場』

交流促進・定住人口増加に向けて 若者の視点を活用

つても高級魚として知られる「若狭ぐじ」です。小浜から全国に運ばれているぐじの8割くらいは、大島地区から水揚げされています。また、名田庄地区の鮎も昔から京都の祇園で高価な魚として流通してきました。京都の川漁師が名田庄に獲りに来て『名田庄の鮎』

として卸していた歴史があります。魚介類以外では、大飯地区では梅やきのこの生産が盛んで、加工品、二次製品など豊富です。その他にも、名田庄地区の自然薯も人気で、こうした特産品を加工するグループも多く、それぞれ活躍されています。

方の中核的な存在でもあります。

昭和61年の「和田港コースタルリゾート構想」にさかのぼり、平成21年に一部供用開始を行いました。22haの敷地に、『こども家族館』や『ホテルうみんびあ』、『マリーナ』、『エルガイアおおい』、『道の駅うみんびあ大飯』などの施設が集まっています。

また、当町はスポーツ施設も充実しており、サッカーやラグビー、フットサルなどの競技が行える『みどりの広場』を整備しています。今年9月に、その施設を利用して、高浜町とおおい町で、企業・団体向けの運動会『若狭路ハッピースマイル運動会』を開催致しました。町内外から参加していただき、たいへん好評でした。

舞鶴若狭自動車道の全線開通効果もあり、おおい町には、平成25年度は103万8千人、平成26年度は108万2千人の方にお越しいただきました。

スポーツ合宿誘致にも力を入れており、夏場の合宿シーズンには、多くの学生に利用していただいております。今後は、さらに民宿とも連携しながら、地元の方との交流をしていただきたいと思います。

『うみんびあ大飯』は町の玄関口としてはもちろん、若狭地

また、現在、町では町内外の皆さんに対し、イベントを通じておおい町を応援していただける『イベントサポーター』を募集してい

ます。登録していただいた方にイベント情報をお知らせし、町内外のサポーターに様々な形で、おおい町を支えていただきたいと思います。

多くの方におおい町を知っていただき、SNSでの発信、そしてイベントへの参加、さらには、交流で知り合った方と結婚して当町に定住していただきたいと思います。その意味では、どこの自治体も「若者の定住」は共通の課題です。

当町では、「おおい町の未来を若者が考える」というワークショップを開催しております。町民や、町内に勤務している約50名の方々に、参加していただいています。

参加者からは、いろんなアイデアをいただきました。意外といえますか、周りの状況を見たバランス感覚を持った意見が多いという印象を持っています。

若い人たちの発想力は非常に大事です。彼らは町の未来そのもので、知恵を借りるというより町の未来を創るという意識を持って取り組むことが大事だと思っていますし、若者の思いを大切にしたいとおもっています。夢や希望を語って、ぜひそれを叶えてほしいと思っていますが、それを裏打ちするのは、お互いの支えあい、良好な関係であり、それを凝縮して実現していきたいと思えます。

また、今まで、当町を支えて下さった高齢者も、生きがいを持って生活していただくよう、しっかりとフォローアップしていきます。町民の健康長寿の拠点として、

世代を超えて住民参加型のまちづくりを推進

都市から、おおい町に移住された方から、「こんなに子育て環境のいいところはない」と言っているだけで、自然に恵まれ、心のふれあい、支えあいを通じて、情緒の安定した人に育つと思えます。

かつて家でできたことを地域でできるようにする、地域でできたことを町としてする、町の限界は広域連携のなかで補完するといったように助け合わなければいけません。

前述したように、当町では若者も高齢の方も一緒になってまちづくりやイベントを作ってきた歴史や経験があり、若者たちが伝統を新たにその時代に合わせて作り変えてきました。自分たちの世代が歴史や伝統を伝え続けるというイメージをもって「バトン」を次世代に繋いでいます。自分の持てる能力で、地域の中での役割と責任をいかに果たすか、ということです。

先人の労苦によって、当町の礎が築かれ、様々な施設を整備していただきました。町民に参加していただきながら、有効な活用や人材育成など、ソフト面の充実が私の役割だと思っております。

町民の皆さんが違いを相互に理解し、協力しあい、支えあう、そのためには住民参加型の町づくりが必要です。地域のコミュニケーションや、まちの活性化に若者の力を借りて取り組んでいますが、生産年齢人口が少なく、人口構成が逆ピラミッドの現状では限界があります。

地域の資源を空気のようになり前として感じています。外から見た、地域住民以外の目線で、人との関わり、小さな歴史、生活文化、自然などのおおい町の良さを再発見していただくために、地域おこし協力隊の方にお越しにいただきました。これが、町の良さに気付くきっかけとなり、地方創生にも繋がれば良いと思います。

誇れる自然環境、豊かな人間関係を、素晴らしいインフラ、子育てを含め、住んでいただくのに最高のまちだと思っております。(談)

健康・医療・福祉総合施設の『なごみ』を整備しています。名田庄地区にも『あつとほーむいきいき館』に診療所を設けており、医療、介護の拠点として活動しています。